

平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「岩村田商店街は 3.11 を忘れないー東北復興支援 5 周年 高校生と支援を継続します」事業
事業主体 (連絡先)	岩村田本町商店街振興組合 0267-54-8339
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,239,820 円 (うち支援金: 1,679,000 円)

事業内容

- 1 岩村田を代表する3イベントの中で、高校生が中心となって「東北および熊本の復興支援」事業を行った。
 - ① 高校生自らが研究した、被災状況のパネル展示
 - ② 佐久平総合技術高校の農産物や加工食品の販売
 - ③ 鹿島学園高校佐久キャンパス生による、物販やミニショップ
- 2 大船渡市 綾里漁協小石浜青年部を招聘しての「恋し浜帆立」「さんまのつみれ汁」実演販売を高校生とともに実施
- 3 収益金を小石浜青年部に「復興支援金」として贈呈



【通年の取組で得た収益を寄付】

【目標・ねらい】

- ① 高校生が復興支援を学ぶことで、問題の本質が学べる。
- ② 継続した復興支援こそ必要だと地域の人とともに認識する
- ③ 高校生と現地の人との交流を通じて、真の復興の実情を高校生が学べる

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

祇園祭では5万人、初午祭では3万人という人出の好天の中で実施できたことはおおきな成果。本年も、復興支援に協力したいというお客様で、イベントでは長蛇の列。高校生がこの3つのイベントだけでなく、「高校生チャレンジショップ」で行った販売も併せて、通年で「復興支援」をその目的のひとつにおいて実践したことで、高校生自身もその復興支援事業の意義を理解し、地域の方にも「高校生が復興支援をがんばっている」という評価をして頂けた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

未だに続く福島原発後遺症も、震災に端を発するいじめ問題も、すべてにおいて復興支援が必要なマター。高校生にとって、被災地の人との交流が生まれ、実際の状況を直に聞くことのできるまたとない機会。そういう点でもこの事業は高校生にとっても、とても大きな意義のあるものだと思信している。継続してこそ意味のある事業であることから次年度も実施予定。

※自己評価【 A 】

【理由】単に、支援金をおくるだけでなく、これからの未来を背負う高校生がしっかり、「復興支援」の意義を地域の人々の応援のなかで学ぶスキームができたこと。また継続して実施していることが高評価に値する。